高齢者による居住地小学校区外でのまちづくり活動

VOLUNTARY COMMUNITY DEVELOPMENT ACTIVITIES DONE BY THE ELDERLY TRANSCEND
THE ELEMENTARY SCHOOL DISTRICT WHERE THEY LIVE吉田 哲^{*1}, 岩田 伸一郎^{*2}

Tetsu YOSHIDA and Shinichiro IWATA

This paper has clarified following based on the questionnaire analysis from the specifications of voluntary community development activities by elderly people. According to discriminant analysis, activity hours per 1 participation, taking “ $2 \leq < 3$ hours”, is most closely related to two or more activities outside elementary school district. As characteristics of the 13 elderly people who perform four or more activities in parallel now, males, officers in neighborhood association, making places activity for elderly people are numerous, by including low monthly participation frequency or indefinite day of the week, the number of activities increases.

Keywords : The elderly, Community development activity, Social contribution activity, Outside of the elementary school district

高齢者, まちづくり活動, 社会貢献活動, 小学校区外

1. 研究の背景、目的

人口、税収減を背景に、各種公共施設の統廃合、福祉や行政サービスの縮小、民間商業施設の撤退やサービスの縮小が進む中、高齢者が地域で日常生活を継続できるよう、都市空間、公共・民間を含めた施設や生活支援の新しいあり方が模索され始めている。このような中、新しい公共の概念の下、まちづくりに知恵を出し、行政のカバーできない支援を部分的にでも担うことが地域居住者にも望まれるようになってきている^{1)~3)}。こうした変化を促すため、行政は積極的な市民を集めたワークショップ(WS)の定期的開催、福祉ボランティアセンター等を通じた NPO 団体の育成等を進めている。中でも、地域福祉の一翼を元気な高齢者が担うことに期待が寄せられている^{4)~7)}。こうした中、府・市・区を中心に位置する役所やセンターで開かれる上記各種 WS や講習会に参加する高齢者が増えている^{注1)}。自身が居住する小学校区^{注2)} (以下地元学区)を出て(Fig.1)、これらの WS 等を経て、福祉等の諸活動も含めた広義のまちづくり活動に、地元学区外の他地域(以

下他地域)で従事する高齢者が始め、この活動を前向きに楽しみ活力を得ている高齢者が一定数いる^{注3)}。この、他地域へ遠征するかたちで、まちづくり活動に複数参加する高齢者による人材や支援の補完が他地域のまちづくり活動を活性化させると考える^{注4)}。つまり、現役で仕事を続けている間、地元学区を含めたまちづくり活動に参加していなかった高齢者が、退職後にその知縁や知識・知恵、時間を使って、加えて他地域の活動にも積極的に関わることで、活動を担う人材減や高齢化のため新規の活動に手を出せない地域団体に新たな活動をもたらすことがある。

筆者はこうした高齢者と幾つかのまちづくり活動を共にする中で本研究の着想を得た。以上の理解の下、本論では、他地域で広義のまちづくり活動^{注5)}をする高齢者を対象として、これまで従事した活動についてアンケート調査を行った。本論ではこのデータを基に、回持ちで全員が交代で負担する前提の義務的な自治会活動と小学校の PTA 活動を除き、自らの意思で地元学区内、他地域で従事するまちづくり活動の特徴を明らかにする。さらに活動を複数並行させる高齢者の他地域での活動の諸元や高齢者自身の属性等を明らかにすることを目的とする。これは特に高齢者の参加による地域のまちづくり活動の人材や支援の補完つまり他地域居住の高齢者によるボランティア市民¹⁵⁾、かつ、外部人材¹⁶⁾形成の端緒を知る意義を持つ。

Fig. 1 present typical process participating activity outside of elementary school district

^{*1} 京都大学大学院工学研究科 准教授・博士(工学)

^{*2} 日本大学生産工学部建築工学科 教授・博士(工学)

Assoc. Prof., Graduate School of Engineering, Kyoto University, Dr.Eng.
Prof., College of Industrial Technology, Nihon University, Dr.Eng.

2. 研究の位置づけ

2012 年版高齢白書では、高齢者の地域活動やボランティア活動について、50 歳代後半と 60 歳代前半で活動に参加したい人の割合に比べて実際の参加率が低いことが指摘され、こうした世代が身近なところで時間や期間に縛られない活動を重視する傾向が明らかにされた¹⁷⁾。同じく内閣府の高齢者の地域社会への参加に関する意識調査では、全国 60 歳以上を回答者とした社会参加活動への考え方に関する事項で、自主的に行われる「生活環境改善」「高齢者の支援」「子育て支援」活動への参加意思を持つ人の割合が 1 割前後であることや、既に参加している活動には 7 割を超える回答者が満足していることが明らかにされた¹⁸⁾。東京都が実施した「地域を支える元気な高齢者(インターネット福祉保健モニター:有効回答中半数が 60 代以上)」では、地域活動や社会貢献活動への参加の状況は「参加希望」が半数、「既に参加している」を合わせると約 9 割の回答であった。興味のある活動は、「地域のまちづくり」「高齢者・障害者支援」で 4 割を超え、「子育て支援」でも 4 割近い回答となっており、内閣府の調査に比べてその割合が高い¹⁹⁾。筆者のグループでは、高齢者の活動の種類とその拠点についてアンケート調査を実施し、小学校で可能と高齢者が考える活動の種類、その理由を明らかにした²⁰⁾。

健全な高齢者による介護ボランティアに着目した研究としては以下が挙げられる。伊藤他は仙台市の地域ボランティア介護供給量の総介護需要量に占める割合の変化を 250m メッシュ毎に算出し、地域的特徴を明らかにした²¹⁾。金他は健全な高齢者が行う互助的介護ボランティア側の意識について調べ、ボランティア自身から肯定的な回答が得られたことを明らかにした²²⁾。

高齢者の個別の活動の成果を、健康状態の維持に着目した研究としては以下が挙げられる。Sakurai 他は、子供たちに読み聞かせをする REPRINTS 世代間プログラムに参加する高齢者の 7 年間の活動の効果を調べ、動的バランス能力、世代間交流頻度、知的活動能力が維持・改善することを明らかにした²³⁾。また Sakurai 他は REPRINTS 参加者と対照群の 6 年間の調査で REPRINTS 群の読み聞かせによる海馬萎縮抑制効果を明らかにした²⁴⁾。Nonaka 他は東京近郊都市の 65 歳以上の調査により、月 1 回以上ボランティアに参加するグループは日本老年医学会の老研式活動能力指標総得点における生活機能が 4 年間減退していないことを明らかにした²⁵⁾。

2015 年 4 月の介護保険制度の見直しによって、要支援者(要支援 1・2)に対する介護サービスは、市町村が「新地域支援事業」として行うことになった。厚生労働省の地域包括ケアシステムでは、多様な主体による生活支援サービスの提供に高齢者の社会参加を一層進めることを通じて、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することが期待され、一方で高齢者が社会的役割をもつことにより、生きがいや介護予防にもつながる旨が謳われる⁴⁾。同様の内容が地方厚生局資料にも、「できる限り高齢者の方も元気でいていただいて、他の方たちを支える生活支援の担い手にもなっていただくといった取組が必要です」と記載されている⁵⁾。このよう高齢者の生活支援における元気な高齢者の役割に関心と期待が向けられるようになっているが、これに類する活動も含めて高齢者が実際にどのような活動をしているのかについて、活動に係る時間や継続年数等の詳細に踏み込んで、特に他地域でのまちづくり活動に焦点を当てて明らかにしたものはない。本論は、特にこれらの活動を複数掛け持ちする高齢者と

その活動の特徴にも焦点を当てて分析する点で既往の研究と異なる。

3. 調査概要

「京都市内各区まちづくり区民会議」^{注 6)}「市福祉ボランティアセンター」「市民活動総合センター」「府シニア大学」で開催された WS、講座、活動団体参加者募集の会等で、他地域でのまちづくり活動を現在している 60 歳以上の高齢者を対象としたアンケート調査を実施した。調査票はその会場で個別の活動団体の代表者に直接に預けたほか、これが適わない場合は代表者宛に郵送して、各会メンバー該当者へ配布を依頼した。調査票は回答者から直接郵送回収した(Table1、有効回答 127 票、16.4%)。調査項目を Table2 に示す。2-1)、2-2)、2-4)の自由記入で得た回答は筆者が分類し、不明点は、連絡先電話番号の回答があれば、連絡を取り、内容を確認した。

Table1 Number of distributed questionnaires and collection rate

Kyoto City	Inhabitants' meeting for community development by ward office	285
	Nakagyo Ward	37
	Fushimi Ward Main Branch	77
	Fushimi Ward Fukakusa Branch	11
	Yamashina Ward	43
	Ukyo Ward	42
	Nishikyo Ward	65
	Welfare volunteer center	
	Social movement center	
	NPO group	206
Kyoto Pref. SKY Senior University Course	Rakusai New Town	
	NPO group	61
		232
Distributed Total numbers, 2017.10-2018.2		760
Valid numbers of responses -2018.3		127
Valid numbers of responses (%)		16.4

Table2 Survey item

1) Respondent attributes
1-1) Age, gender, years after retirement, name of nearby station / bus stop
1-2) Interannual officer experience in local residents' association or PTA
2) About each individual activity
2-1) Activity name, content, location
2-2) Travel time to activity location, means of traffic
2-3) Position (representative, supporter, participant)
2-4) Participation start / end year-month, opportunity
2-5) Participation Day of week, frequency in the month, timezone, numbers of hours
2-6) Number of supporters per once, central age group, Living place(within/ outside elementary school district as activity place)
2-7) Number of customers per once

4. 回答者の属性

回答者の「年齢層」は「65-69 歳」「70-74 歳」「75-79 歳」が中心で、この年代では女性ほぼ同数である^{注 7)}(Table3)。「平均年齢」は、男性 71.5 歳、女性 72.2 歳、全体で 71.9 歳であった。「退職後年数」は男性では「退職後 11-20 年」が多く、女性では「専業主婦」を除いて「6-10 年」「11-20 年」がほぼ同数で多い(Table4)。「退職後年数」の平均は「専業主婦」「現役」を除いて男性 10.1 年、女性 13.6 年、全体で 11.8 年であった。地元学区内の自治会や PTA の経年での「役員歴有」の人は全体で 44%と一般よりも高い割合と考えられる(Table5)。地元学区内の活動

Table5 Interannual officer experience in neighbors' association and PTA in elementary school district

Table3		Age group									officer experience			
gender	age	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	total (%)	gender		yes	none	total (%)	
Male		4(8)	18(36)	11(22)	14(28)	1(2)	2(4)	50(100)	Male		22(44)	28(56)	50(100)	
Female		7(10)	17(25)	18(26)	19(28)	7(10)	1(1)	69(100)	Female		30(44)	38(56)	68(100)	
total		11(9)	35(29)	29(24)	33(28)	8(7)	3(3)	119(100)	total		52(44)	66(56)	118(100)	
p=0.389									p=0.99					

Table4 Years after retirement		House On Active										total(%)	
gender	years after retirement	0	1	2,3	4,5	6-10	11-20	21--	-wife	On service	Active	total(%)	
Male		4(8)	1(2)	4(8)	3(6)	11(22)	20(41)	1(2)		5(10)		49(100)	
Female		1(1)		2(3)	5(7)	15(22)	13(19)	8(12)	22(32)	2(3)		68(100)	
total		1(1)	1(1)	6(5)	8(7)	26(22)	33(28)	9(8)	22(19)	7(6)		117(100)	
p=0.000													

数の平均は全体で 0.3 件であった(Table6)。他地域の活動数では「2 件以上」の回答者は全体の 40%で、男性 50%、女性 34%と男性が 1.5 倍多く、「4 件以上」では男性 20%と女性の 10%の倍ある。他地域の活動数の平均は男性 2.1 件、女性 1.6 件、全体で 1.8 件であった(Table7)。合計活動数の平均は、男性 2.4 件、女性 1.9 件、全体で 2.1 件であった。

Table6 Total number of activities					
total number	0	1	2	3	total(%)
gender					
Male	40(80)	7(14)	3(6)		50(100)
Female	53(78)	12(18)	2(3)	1(1)	68(100)
total	93(79)	19(16)	5(4)	1(1)	118(100)
Except interannual officer experience in local residents' association and PTA in elementary school district					
					p=0.65

Table7 Total number of activities outside school district					
total number	1	2	3	≥4	total(%)
gender					
Male	26(51)	9(18)	6(12)	10(20)	51(100)
Female	46(66)	14(20)	3(4)	7(10)	70(100)
total	72(60)	23(19)	9(7)	17(14)	121(100)
Except interannual officer experience in local residents' association and PTA in elementary school district					
					p=0.09

5. 地元学区内外での活動の諸元

地元学区内と他地域(以下地元学区内外)での活動の回答者や活動の諸元を分析する。以下では地元学区内、他地域、その合計での該当項目の件数が、各々の列和に占める割合の相違を比べ、活動の全体像を述べる。回答者 127 人で他地域 227 件、地元学区内 35 件、計 262 件の活動があった。地元学区内活動は回り持ちの活動を除外したため少なく、また他地域で活動をする高齢者が主対象の調査のため他地域での活動数が多い。

5-1. 活動の種類

自由記入された「活動」の「種類」を Table8 のように分類した。各種の活動の入る「福祉系」が 100 件と全体の 38%と 4 割弱を占め、「高齢者居場所系」28 件 11%、「学習系」が 25 件 10%と 1 割前後で続く。p 値(カイ 2 乗

Table9 Type of activity			
Type of activity	within district*	outside district*	total
Elderly salon activity	8(23)	20(9)	28(11)
Child care support activity	3(9)	15(7)	18(7)
Nature activity	1(3)	19(8)	20(8)
Welfare activity	4(11)	96(42)	100(38)
School activity	7(20)	4(2)	11(4)
Residents' association activity	3(9)	1(0)	4(2)
Wide area activity		9(4)	9(3)
Event activity		6(3)	6(2)
Hobbies activity	1(3)	8(4)	9(3)
Community development activity	4(11)	13(6)	17(6)
Multi-generation support activity	1(3)	2(1)	3(1)
Group management activity		2(1)	2(1)
Foreigners support activity	1(3)	5(2)	6(2)
Guide activity		4(2)	4(2)
Learning activity	2(6)	23(10)	25(10)
total(%)	35(100)	227(100)	262(100)
*:elementary school district p= 0.000			

Table8 Type of activities and concrete examples, classification requirements		
Type of activity	Activity example	Requirement
高齢者居場所系 Elderly salon activity	Elderly salon, Dementia prevention game, Singing salon, Dispatch and instruction of Art・Shogi to elderly's facility	Provide entertainment to plural elderly people
子育て系 Child care support activity	Child cafeteria, Story-telling, Watching over children, Taking care of children during parents' hearing lectures, Drawing instruction, Dispatch and instruction of Art to children's house, elementary school, etc.	
自然系 Nature activity	Rooftop greening, Flower bed maintenance along main street, Bamboo forest regeneration volunteer, Eco-school, Meeting to protect environment/nature, Garbage pick up	
福祉系 Welfare activity	Listening volunteer, Wheelchair repair, Welfare driver, Making/sending reading-CD for the visually impaired, Bathing support at elderly facility	Welfare activity Except Elderly salon, Child care support, Multi-generation support
学校系 School activity	High school PTA, Watching team for pupils' going to and from elementary school, After school child care, Father's meeting, sports instruction, support for school events, JICA senior volunteer (instruction at foreign vocational training school)	Any activity that are not done in turn by parents of pupils
自治会系 Residents' association activity	Support for events organized by neighbourhood associations such as Social Welfare council/Juvenile guidance, Masters club, TV receiving equipment maintenance in neighbourhood association	Any activity that are not done in turn by people in district
広域系 Wide area activity	Prefecture physical education association, Prefecture PTA liaison council, City sports instructor, Ward juvenile guidance, Ward volunteer probation officers, Ward traffic safety promotion committee	Wider activity done for than 1 elementary school district
イベント系 Event activity	Marche, Castle festival, Flowery light road festival, Newtown festival, Walking event	
趣味系 Hobbies activity	Association for trolley, Castle map production, Nishiyama culture talks, Yamashina talks, Drums association	Not only to enjoy themselves but also to entertain people who gather
まちづくり系(狭義) Community development activity	Newtown liaison meeting, Site use study meeting after relocation of university campus, Inhabitant meeting for community development and activation activities derived after those meeting	
多世代支援系 Multi-generation support activity	Making a place or cafeteria for multi-generation support, Recreation association	For both elderly people and children and other generations
団体運営系 Group management activity	Management of the senior university, Management of the NPO overseas cooperation association	Focus on Management of activity groups
外国人支援系 Foreigners support activity	Japanese language classes and tutors, Exchanges with Yunnan Province, China, Social gathering activities between local residents and foreigners, Introduction of traditional costumes to inbound	
ガイド系 Guide activity	Museum guide, temples and shrines guide	
学習系 Learning activity	Instruction of computer operation, Instruction of Kyoto-kotoba, Only study session of listening association	Focus on teaching to elderly people and children after learning by themselves

検定。以下同)より、地元学区内外で有意に異なる。地元学区内では「高齢者居場所系」「学校系」「自治会系」が多いのに対し、他地域では「福祉系」が 42%と学区内の 4 倍、「自然系」で 8%と学区内の 3 倍弱であった(Table9)。地元学区内外で福祉系 1 件のみは男性 12 人、女性 31 人、性別不明 2 人と女性が多く、福祉系も含めて活動を複数している人は男性 12 人、女性 15 人と男性の割合が相対的に上がっていた。

5-2. 活動の時間的側面

「活動場所までの移動時間」は、全体では「30-59 分」が 34%、「10-19 分」が 20%と高く、これらで半数を占める。他地域では「30-59 分」が

Table10 Travel time to activity place			
travel time(min)	within district*	outside district*	total
0-9	16(46)	9(4)	25(10)
10-19	14(40)	36(16)	50(20)
20-29	3(9)	27(12)	30(12)
30-59	1(3)	86(39)	87(34)
60-89		34(15)	34(13)
90-		7(3)	7(3)
indefinite	1(3)	21(10)	22(9)
total(%)	35(100)	220(100)	255(100)
*:elementary school district p=0.000			

Table11 Age when elderly start the activity			
start age(y/o)	within district*	outside district*	total
-49	5(16)	31(15)	36(15)
50-59	11(34)	47(23)	58(24)
60-64	9(28)	57(27)	66(28)
65-69	3(9)	40(19)	43(18)
70-74	3(9)	22(11)	25(10)
75-79	1(3)	7(3)	8(3)
80-84		4(2)	4(2)
total(%)	32(100)	208(100)	240(100)
*:elementary school district p=0.708			

39%と最多で、「60-89 分」も 15%となり、長時間での移動が多い。何カ所かの活動場所を持つため「移動時間が不定」となる割合も 10%と 1 割を占めていた。「移動時間」の平均は学区内 8.88 分、他地域 36.85 分、全体で 32.77 分であった(Table10)。

「当該活動の開始年齢」は「59 歳まで」に始めた回答者が全体で 39%と 4 割弱で、「64 歳まで」を含めると 67%と 7 割弱となっていた(Table11)。p 値より地元学区内外別に有意な差はないが、「50-59 歳」で始めた活動は地元学区内が 34%と、他地域の 23%より 10%以上多いのに対し、「65-69 歳」で始めた活動は他地域が 19%と地元学区内の 9%を逆転する。「70 歳以上」の活動も全体で 15%あった。「活動開始年齢」の平均は地元学区内 58.3 歳、他地域 59.7 歳、全体で 59.5 歳であった。

「当該活動開始時点の退職後年数」では、「退職まで」に始めた活動は全体で 26%、「現在現役」9%、「専業主婦」13%と合わせると 48%と半数近くであり、「退職後」に始めた活動は 52%であった(Table12)。「退職当年」では地元学区内の方が 14%と他地域の割合よりも多いが、「退職後 6-10 年まで」の区分では他地域で活動を始める割合が若干高く、特に「退職後 1 年」では他地域で始める活動のみである。「活動開始時点の退職後年数」の平均は地元学区内 0.86 年、他地域 0.35 年、全体 0.41 年であった。

「当該活動への参加期間」(期限末期は 2018.3. 開始・終了が年度のみの回答の場合、年度の中点の 10 月を開始もしくは終了月とした)では、地元学区内外では、「2 年超 5 年以下」が全体で 24%と 1/4 程度あり、地元学区内が 35%と他地域の 23%より 10%以上多い。「10 年超 20 年以下」が全体でこれとほぼ同程度の 23%、「5

年超 10 年以下」が 21%と続いた。「参加期間」は「5 年超」で半数を超えており、活動継続年数が長いことがわかる。「参加期間」の平均は地元学区内 87.3 か月、他地域 112.1 か月、全体 108.7 か月であった (Table13)。

Table12 Years after retirement at the start of the activity

years	within district*	outside district*	total
~11	3(10)	22(10)	25(10)
-10~0	6(21)	32(15)	38(16)
0	4(14)	17(8)	21(9)
1		14(7)	14(6)
2,3	2(7)	23(11)	25(10)
4,5	2(7)	17(8)	19(8)
6~10		23(11)	25(10)
11~	3(10)	18(9)	21(9)
on active	4(14)	17(8)	21(9)
Housewife	3(10)	28(13)	31(13)
total(%)	29(100)	211(100)	240(100)

*:elementary school district p=0.796

Table13 Participation duration

years	within district*	outside district*	total
0< ≤1	3(9)	24(11)	27(11)
1< ≤2	3(9)	27(13)	30(12)
2< ≤5	12(35)	49(23)	61(24)
5< ≤10	8(24)	44(20)	52(21)
10< ≤20	6(18)	52(24)	58(23)
20<	2(6)	20(9)	22(9)
total(%)	34(100)	216(100)	250(100)

*:elementary school district p=0.634

「当該活動の 1 か月の参加頻度」(1 か月に「4-5 回」=平均 4.5 回等 1 か月当りに割戻した値)では、「1 回以上 2 回未満」で地元学区内が 15%多く 46%、全体で 33%であった (Table14)。全体ではこれに続き「2 回以上 3 回未満」が 21%、「3 回以上 5 回未満(週 1 回程度まで)」が 20%となり、後者は他地域が 11%多い。「5 回以上 9 回未満(週 2 回となる週が必ず 1 回はある)」では 6%と「9 回以上」の 5%が 5%強となり、「参加頻度が不定」は 7%あった。これを見る限り週 1 回を超える参加は合わせても 1 割強程度で、全体の中では少ない。「参加頻度」の平均は不定を除き地元学区内 4.2 回、他地域 2.8 回、全体で 3.0 回であった。

「当該活動への参加曜日^{注 8)}」は地元学区内外で有意な差はないが、地元学区内では「週末」が 31%と他地域の 15%の約 2 倍であるのに対し、他地域では「平日」が 49%と半数近く占める点が大きく異なる。また「参加曜日が不定」は地元学区内外とも 31%であった。これは参加者の予定等に応じて複数の曜日の開催日から参加できる曜日を選んで参加する活動と、相手先の予定によって決まる日程も含んでいる (Table15)。

Table14 Participation frequency in 1 month

times	within district*	outside district*	total
<1		19(8)	19(7)
1 ≤ <2	16(46)	70(31)	86(33)
2 ≤ <3	6(17)	49(22)	55(21)
3 ≤ <5	4(11)	49(22)	53(20)
5 ≤ <9	2(6)	13(6)	15(6)
9 ≤	4(11)	10(4)	14(5)
indefinite	3(9)	16(7)	19(7)
total(%)	35(100)	226(100)	261(100)

*:elementary school district p=0.139

Table15 Day of participation

day of week	within district*	outside district*	total
weekday	13(37)	111(49)	124(48)
weekend	11(31)	34(15)	45(17)
both		10(4)	10(4)
indefinite	11(31)	71(31)	82(31)
total(%)	35(100)	226(100)	261(100)

*:elementary school district p=0.066

「当該活動の参加時間帯」は地元学区内外で有意な差はない。「午後」が地元学区内で 43%、他地域で 28%と多く、他地域では「午前+午後」も 32%と 3 割を越え、ともに全体で 30%であった (Table16)。

「当該活動への 1 回あたりの参加時間数」は、地元学区内外で有意な差はない。「3 時間以上 5 時間未満」が全体、他地域でともに 30%で最大となった。続いて「2 時間以上 3 時間未満」が他地域で 26%(全体で 27%)と多い。地元学区内では「2 時間以上 3 時間未満」が 35%と最大となった。「5 時間以上」も他地域で 21%、地元学区内で 15%あり、長時間の参加も多い。他地域では「参加時間数」が不定との回答が 8%あった。「参加時間数」の平均は「不定」を除き、地元学区内 2.8 時間、他地域 3.2 時間、全体で 3.2 時間であった (Table17)。

Table16 Participation time zone

time zone	within district*	outside district*	total
a.m.	7(20)	35(15)	42(16)
p.m.	15(43)	64(28)	79(30)
a.m.+p.m.	5(14)	73(32)	78(30)
indefinite	8(23)	55(24)	63(24)
total(%)	35(100)	227(100)	262(100)

*:elementary school district p=0.120

Table17 Hours of participation / 1 time

numbers of hours	within district*	outside district*	total
<1	1(3)	9(4)	10(4)
1 ≤ <2	5(15)	24(11)	29(11)
2 ≤ <3	12(35)	58(26)	70(27)
3 ≤ <5	10(29)	68(30)	78(30)
5 ≤	5(15)	47(21)	52(20)
indefinite	1(3)	18(8)	19(7)
total(%)	34(100)	224(100)	258(100)

*:elementary school district p=0.685

5-3.活動の手伝いの人的側面

当該活動の開催にあたり、サービスの提供対象である客がいる活動(傾聴ボランティアや高齢者居場所づくり等)でのサービス提供者、客はおらず一参加者として共同作業を行う活動(参加者が 1 か所に集まって、各自が自宅で録音した視覚障害者向けに音読 CD の宛名書発送作業等)での作業参加者を合わせて「手伝い」として、1 回の活動毎に参加する「手伝い」の人数に基づいて活動を集計した。地元学区内外で 2%で有意に異なっていた。他地域では、傾聴ボランティア等、「1 人」でそのサービスを提供する場合は 20%、地元学区内の 11%の 1.8 倍多い。他地域では「11-20 人」が 26%と地元学区内の 6%の 4.3 倍多い。これに対し地元学区内は「3-5 人」が 34%と他地域の 21%の 1.6 倍あり、また「6-10 人」も 37%と他地域の 19%の 1.9 倍多い。このように他地域では「3-5 人」や「6-10 人」等の少人数での活動が多く、1 人で行う活動は少ない。一方他地域では「1 人」「11-20 人」の両極で地元学区内より多く、この中間の人数での活動の割合が地元学区内より少ない (Table18)。「手伝いにあたる人の中心年齢」は、地元学区内外で有意な差はないが、「70・80 代のみ」が全体で 30%、地元学区内では若年多く 37%であった (Table19)。他地域では、「中心となる年齢層がない」活動が 29%あり、地元学区内に比べて多い。他地域では「50・60 代のみ」や「50・60 代と 70・80 代との組合せ」が同数程度の 20%で続いていた。地元学区内では「この両世代の組合せ」は 9%と非常に少ない。「20・30 代」は回答者が若い時の同世代の活動である。

Table18 Number of people support

number of people	within district*	outside district*	total
1	4(11)	44(20)	48(18)
2	2(6)	8(4)	10(4)
3-5	12(34)	47(21)	59(23)
6-10	13(37)	42(19)	55(21)
11-20	2(6)	58(26)	60(23)
21-100	1(3)	11(5)	12(5)
indefinite	1(3)	15(7)	16(6)
total(%)	35(100)	225(100)	260(100)

*:elementary school district p=0.020

Table19 Central age group of supporters

age group	within district*	outside district*	total
20s, 30s	2(6)	5(2)	7(3)
50s, 60s	10(29)	45(20)	55(21)
70s, 80s	13(37)	65(29)	78(30)
Combination of "50s, 60s" & "70s, 80s"	3(9)	46(20)	49(19)
No center	7(20)	65(29)	72(28)
total(%)	35(100)	226(100)	261(100)

*:elementary school district p=0.180

「活動に来る客の人数」は地元学区内外で 5%有意で異なった。地元学区内では「11-20 人」が 24%、「21-50 人」が 18%と 2 割前後であるのに対し、他地域ではともに 9%と 1 割弱となる。「客数が不定」は 8%であった。「客がいない活動」は全体で 37%と 4 割弱あり、他地域で 38%、地元学区内で 27%であった (Table20)。

5-4.小結

「活動の種類」は「福祉系」が全体で最多で 38%、「高齢者居場所系」が 11%と続く (5-1)。「活動場所までの移動時間」は「30-59 分」が全体で 34%、「1 か月の活動頻度」は「1 回以上 2 回未満」が全体で 33%と多

Table20 Maximum number of customers per once

number of people	within district*	outside district*	total
0	9(27)	85(38)	94(37)
1	1(3)	35(16)	36(14)
2-3	1(3)	12(5)	13(5)
4-5		5(2)	5(2)
6-10	3(9)	11(5)	14(5)
11-20	8(24)	20(9)	28(11)
21-50	6(18)	21(9)	27(11)
51-100	3(9)	9(4)	12(5)
101-	1(3)	7(3)	8(3)
indefinite	1(3)	19(8)	20(8)
total(%)	33(100)	224(100)	257(100)

*:elementary school district p=0.047

い。「活動への参加曜日」は他地域では「平日」が 49%と多い。「活動の参加時間帯」は「午後」「午前+午後」が全体で 30%と多い(5-2)。「活動の手伝い人数」は他地域では「1 人」「11-20 人」、地元学区内では「3-5 人」「6-10 人」等が多いのが対照的である。手伝いの中心年齢層では「70・80 代」「中心年齢層なし」が全体で 30%前後と多い(5-3)。

6. 他地域での活動諸元による活動の分類

本章では他地域での活動を母数として、「活動種類」「1 か月の参加頻度」「参加曜日」「時間帯」「時間数」「手伝い人数」「中心年齢」をもとに活動を分類した(有効回答 220 活動・122 人)。群間平均連結法、ユークリッド平方距離を用いたクラスタ分析によって活動は 6 群を得た(Fig.2)。このうち第 5、6 群に属する活動の数が少なかったため、手前の分岐で統合し合計 4 群とした。各群毎に活動の諸元の特徴を Table21 にまとめた。なお同じ活動でも回答者によって「参加頻度」や「参加の時間帯」が異なる場合や、福祉運転ボランティアのように要請に応じてその活動に従事する場合等では同じ活動の種類でも異なった諸元となるため、必ずしも同じ群とはならない。このため福祉系は多岐の群に分かれており、1 群では半数近く、3、4 群で 3 割超、2 群ではその半数となった。

6-1. 各群の特徴

第 1 群は「平日」「月 1 回以上 2 回未満」「午後のみ／午前+午後」「3 時間以上 5 時間未満／2 時間以上 3 時間未満」の活動を「手伝い人数 11 人以上 20 人以下の人数」「70・80 代のみが中心となる年齢」で行う活動が目立つ、149 件と最多の群となった。最も多い「福祉系」の活動のうち、視覚障害者向けの音訳ボランティア活動、平日の決まった時間に派遣先の施設に向かう傾聴ボランティア活動が 1 群となった。

第 2 群は 13 件の最小の群となった。年に数回程度等と開催の要件が粗く決まっているような広域の地域を対象地域とする「広域系」(京都府体育協会・国体・府民総体等の世話、府 PTA 連絡協議会、区の交通安全推進委員、保護司会)や小学校より広い通学圏の高校の PTA 役員(「学校系」)、または、開催が不定期の養護施設での催しの準備手伝い(「福祉系」)等、「頻度・曜日・時間帯・時間数等が不定」の活動がこの群に入った。

第 3 群は「参加曜日は不定」だが、「午前+午後」で「5 時間以上／2 時間以上 3 時間未満」等が多く、「月 2 回以上 3 回未満／月 3 回以上 5 回未満」等回数が多く、「手伝い人数 3-5 人」「中心年齢がない／50・60 代のみ」となる活動であった。具体的には区や市の少年補導委員会や消費生活センターでの活動等の「広域系」、車いす修理の「福祉系」の活動等で、1 群のように毎週等決まった日に集まる活動でなく比較的少人数で行う活動がこの群に入った。

第 4 群は 37 件の群で第 1 群に続いて活動数が多い。「参加曜日が不定」、「参加時間帯が不定」「3 時間以上 5 時間未満／参加時間数不定」となる活動が多く、「月に 1 回以上 2 回未満」が多く、「月 1 回未満(何か月かに 1 回)」「月に 3 回以上 5 回未満」が同数程度で続いていた。「手伝い人数は 6-10 人」、「手伝いの中心年齢も 70・80 代のみ／中心年齢層なし」の活動が多い。具体的な活動として、老人福祉センターでの入浴ボランティアや介護者同士の懇親の会、チャリティバザーの会、高齢者・障害者の外出支援の運転ボランティアや傾聴ボランティア等の「福祉系」が含まれる。

「経年での自治会や PTA 役員歴」で、この群による相違が見られた(有意差 3%。Table22)。1・4 群では「役員歴無」が多いが、4 群では「役員歴無」の割合が 1 群より 10%高い。2 群では「役員歴有」が約 8 割と非常に高く、これらの傾向は「広域系」の活動内容からも推測することができる。3 群では「役員歴有」が 2 群程高くないが 6 割を超えた。

Table22 Interannual officer experience in local residents' association and PTA in elementary school district

	officer experience
Group 1	none(55)
Group 2	yes(77)
Group 3	yes(62)
Group 4	none(65)
p value	0.03
(constitution ratio%)	

6-2. 小結

他地域での活動はクラスタ分析により 4 群となった。「活動の 1 か月の参加頻度／月 1 回以上 2 回未満」「参加曜日／平日」「参加時間帯／午後」の「福祉系」が多い 1 群、同項目が「不定」の「広域系」の活動をし、自治会・PTA で経年で役員有が多い 2 群に分かれた。「福祉系」「子育て系」が共通する 3、4 群では 3 群で「広域系」が続き、「1 か月参加頻度／2 回以上 3 回未満、3 回以上 5 回未満」「参加時間帯／午前+午後」「参加時間数／5 時間以上」が多い。4 群は同各々が「高齢者居場所系、自然系」「1 回以上 2 回未満」「不定」「3 時間以上 5 時間未満」が多かった。

Table21 Characteristic of each cluster

	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4
Type of activity	<u>welfare(47)</u> , Learning(14)	<u>Wide area (31)</u> , welfare(15), School (15)	<u>welfare(33)</u> , Child care support(14), Wide area (14)	<u>welfare(32)</u> , Elderly salon (14), Child care support(14), Nature (14)
Participation frequency in 1 month	<u>1 ≤ <2(37)</u> , 2 ≤ <3(24), 3 ≤ <5(23)	indefinite(69)	2 ≤ <3(24), 3 ≤ <5(24)	<u>1 ≤ <2(27)</u> , <1(24), 3 ≤ <5(22)
Day of participation	weekday(71)	indefinite(92)	indefinite(100)	indefinite(100)
Participation timezone	<u>p.m.(39)</u> , a.m.+p.m.(36)	indefinite(100)	a.m.+p.m.(67)	indefinite(100)
Hours of participation / 1 time	<u>3 ≤ <5(33)</u> , 2 ≤ <3(28), 5 ≤ (23)	indefinite(69)	<u>5 ≤ (38)</u> , 2 ≤ <3(29), 3 ≤ <5(24)	<u>3 ≤ <5(35)</u> , indefinite(22), 2 ≤ <3(19)
Number of people support	<u>11-20(31)</u> , 1(22), 3-5(21)	<u>indefinite(77)</u> , 6-10(15)	3-5(43)	6-10(35)
Central age group of supporters	<u>70s, 80s(33)</u> , 50s, 60s(21), Combinatin of "50s, 60s" & "70s, 80s"(22), No center(22)	Combinatin of "50s, 60s" & "70s, 80s"(100)	<u>No center(33)</u> , 50s, 60s(29), 70s, 80s(14), Combinatin of "50s, 60s" & "70s, 80s"(24),	<u>70s, 80s(32)</u> , No center(29),
nms of activities	149(68)	13(6)	21(10)	37(17)
total 220				
category which has maximum ratio in each variable(constitution ratio %)

Fig. 2 Dendrogram of cluster analysis

7. 他地域での 1 件目の活動

7-1. 活動の開始年齢、退職後年数区分等

本章では他地域で最初にした(1 件目の)活動に着目する。1 件目の他地域での活動を開始した時点での「年齢」を男女別に見ると、女性性は「50-59 歳」の 31%、男性は「60-64 歳」33% が最多で、開始時点のピークに若干の年齢差がある。一方、「49 歳まで」で全体の 18%、「50 歳代」の 24%と合わせた 42%で 60 歳までに活動を始めていることもわかる(Table23)。また、地元学区内での自治会や PTA 活動を除いて、他地域での活動が初めての活動(「1 番目」となる人が殆どであった(Table24)。

「退職後の年数」では「退職前」の回答は男性全体の 40%、「専業主婦」も含めた女性全体の 21%であった。退職当年である「0 年」が 11

Table23 Age when elderly start the 1st activity outside school district

gender\age	49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-79	84	total(%)
Male	9(19)	7(15)	16(33)	6(13)	9(19)	1(2)		48(100)
Female	11(17)	20(31)	16(25)	5(8)	8(13)	3(5)	1(2)	64(100)
total	20(18)	27(24)	32(29)	11(10)	17(15)	4(4)	1(1)	112(100)

p=0.374

Table24 What number activity was 1st activity outside school district

gender\ordinal numbers	1st	2nd	3rd	total(%)
Male	48(94)	2(4)	1(2)	51(100)
Female	62(89)	7(10)	1(1)	70(100)
total	110(91)	9(7)	2(2)	121(100)

p=0.446

人と、退職当年である「0 年」が 11 人と単年で最も多く、「退職後 1 年」が 8 人と続く。「2, 3 年目」「4, 5 年目」と人数は減っていくが「退職後 11 年」を超えた時点で活動を始める回答者もあり、女性でこの数が多い。「退職後」に他地域で活動を開始した人は全体で 45%であり、「退職前」の 29%の約 1.6 倍である。遅い人では 40, 50 代で退職した後に 20 年以上経過した 70 代で活動を開始したケースや、60 代で退職した後、70, 80 代で他地域で活動を開始したケースも数件あった (Table25)。1 件目の他地域での活動場所までの「移動時間」は、「活動場所が不定」の回答を除く全員の平均が 35.5 分、男女共に最多は「30-59 分」で、この時間の割合は男性 33%であるのに対し、女性は 51%と半数を超えていた (Table26)。

Table25 Years after retirement at the start of 1st activity outside school district

		school district										
years after retirement	gender	~-11	-10-0	0	1	2,3	4,5	6-10	11-	House On Active -wife service	total(%)	
	Male	8(17)	11(23)	5(11)	4(9)	5(11)	3(6)	4(9)	2(4)	5(11)	47(100)	
	Female	6(10)	7(11)	6(10)	4(6)	4(6)	3(5)	4(6)	7(11)	20(32)	63(100)	
	total	14(13)	18(16)	11(10)	8(7)	9(8)	6(5)	8(7)	9(8)	20(18)	7(6)	110(100)

p=0.005

Table26 Travel time to the 1st activity place outside school district

gender\minutes	0-9	10-19	20-29	30-59	60-89	90-indefinite	total(%)
Male	4(8)	9(18)	7(14)	16(33)	4(8)	1(2)	49(100)
Female	7(10)	10(14)	35(51)	12(17)	2(3)	3(4)	69(100)
total	4(3)	16(14)	17(14)	51(43)	16(14)	3(3)	118(100)

p=0.040

7-2.小結

1 件目の他地域での活動は、「退職当年」「退職後 1 年」が多く、「移動時間」では「30-59 分」が男女ともに最多であった。

8. 2件以上他地域で活動を行う高齢者の 1 件目の他地域での活動の特徴

筆者が参加した幾つかの区民まちづくり会議やまちづくり活動では複数のまちづくり活動を並行させるマルチプレーヤーが何人かいた。どのように、またどのような活動を並行させているのかは単純な疑問であった。これは、地域のまちづくり活動を地域相互で補完し合うことを展望するとき、2 件以上の他地域での活動を並行させる高齢者とその活動の特徴を知ることには意義があると考えからでもある。そこで本章では、1 件目の他地域の活動の種類、諸元、高齢者本人の属性が、他地域の活動が 1 件に留まるか 2 件以上の複数になるかを分けると考え、どの諸元との関係が大きいのか判別分析(林の数量化 II 類)により明らかにした。外的基準には Table27 の 10 件を用いた。「1 件目の他地域活動が学区内活動も含めて何番目か(1 件目が多い)」「活動参加曜日(同平日)」「手伝いの住まい(同活動場所他地域)」は回答が偏るため除外した。

8-1. 2件以上他地域で活動を行う高齢者の 1 件目の他地域での活動の特徴

分析の判別正答率は 86.32%、相関比は 0.55 と分析の精度は一定の水準を満たしている (Table27)。なお、有効 95 件の活動のうち、回答時点で継続している活動が 81 件、継続している活動のうち、「活

Table27 Discriminant analysis (quantification method of second type) by nums. of activities as external criterion district

item	category	v.c.	category score	range	Partial correlation coefficient
Gender	Male	43	0.03		
	Female	52	-0.03	0.06	0.03
Age(y/o)	60-64	9	-0.45	2.21	0.42
	65-69	26	-0.43	(5)	(5)
	70-74	25	0.34		
	75-79	27	0.08		
	80-84	6	1.11		
	85-89	2	-1.10		
Interannual officer experience in local residents' association and PTA in elementary school district	yes	45	0.28	0.53	0.27
	none	50	-0.25		
start age (y/o)	-49	18	0.00	2.51	0.42
	50-59	23	0.62	(3)	(5)
	60-64	27	-0.49		
	65-69	8	0.31		
	70-74	15	-0.29		
	75-79	3	-0.45		
	80-84	1	2.02		
Participation frequency in 1 month	<1	6	-0.20	1.25	0.28
	1 ≤ <2	21	0.00		
	2 ≤ <3	32	-0.09		
	3 ≤ <5	18	0.34		
	5 ≤ <9	6	-0.46		
	9 ≤	6	0.68		
	indefinite	6	-0.56		
Participation timezone	a.m.	15	-0.61	1.37	0.51
	p.m.	22	0.44		(1)
	a.m.+p.m.	35	-0.52		
	indefinite	23	0.76		
Hours of participation / 1 time	<1 hour	3	-1.95	2.99	0.51
	1 ≤ <2	3	-0.53	(1)	(1)
	2 ≤ <3	28	0.64		
	3 ≤ <5	36	-0.31		
	5 ≤	21	-0.16		
	indefinite	4	1.04		
Number of people support	1	13	0.19	2.42	0.45
	2	2	-0.54	(4)	(4)
	3-5	22	-0.69		
	6-10	21	0.23		
	11-20	26	0.01		
	21-100	5	1.73		
	indefinite	6	0.02		
Central age group of supporters	20s,30s	3	1.24	1.47	0.27
	50s,60s	17	0.14		
	70s,80s	27	-0.24		
	Combination	24	0.11		
	No center	24	-0.09		
Type of activity	Elderly salon	6	0.15	2.68	0.47
	Child care support	8	-0.12	(2)	(3)
	Nature	7	-0.13		
	Welfare	38	-0.02		
	School	1	0.53		
	Wide area	5	0.29		
	Event	2	-0.95		
	Hobbies	3	1.73		
	Community development	4	0.08		
	Foreigners support	2	0.70		
	Guide	3	1.50		
	Learning	16	-0.60		
Number of valid answers(v.c.)		95			
number of activity outside school district=1	average	52	-0.67		
	variance		0.40		
number of activity outside school district ≥ 2	average	43	0.81		
	variance		0.53		
Correlation ratio			0.55		
Correct answer rate	number of activity = 1	52	90.38%		
	number of activity ≥ 2	43	81.40%		
	total	95	86.32%		

動開始時の年齢」は、「59 歳まで」が 30 件であった。

アイテム毎のレンジと偏相関係数の値が大きいものから順位をつけた。両値が高く、この判別との関係が大きい(順位の和が小)属性は「1 回当りの活動時間数」であった。カテゴリースコア (>0 で 2 件以上の活動)で見ると、「2 時間以上 3 時間未満」「時間数不定」で活動 2 件以上となる。「1 回当りの活動時間数」は前者より多くても少なくともカテゴリースコアは負のため、2 件以上の活動には繋がらない。

次に関係が大きいのが「活動の種類」である。人数の多い「福祉系」や、「学習系」、さらには「子育て系」「自然系」の活動場合、活動は1件となる。これに対し、「高齢者居場所づくり」「広域系」「まちづくり系」の活動では2件以上の活動となる(4人以上回答)。「1回毎の手伝いの人数」では「6-10人」「1人」の活動で2件以上との関係が高い。回答数はこれより減るが「手伝い人数」が「21-100人」でもカテゴリースコアは正であった。「活動の開始年齢」では「50-59歳」「65-69歳」で2件目の他地域活動に繋がるが、この間の「60-64歳」の開始では1件の他地域活動に留まることは興味深い。「回答者の現在年齢」では、「70-74歳」と、回答数は少ないが「80-84歳」と、高齢で2件以上の活動との関係が大きい。なお、「1か月の参加頻度」「活動時間帯」「手伝い中心年齢」「性別」「経年の役員歴」は、他地域での活動数が1か2以上かの判別に関係は小さい。なお、活動が1個にとどまる人は男性21人、女性31人であった。中でも1件目の活動では、「活動の種類」で「福祉系」男性8人、女性16人、「学習系」男性5人、女性8人と、1件目で「福祉系」「学習系」の活動となる女性の多さが目立つ。

8-2. 小結

判別分析より1件目の他地域での活動の「1回当りの活動時間数/2時間以上3時間未満、時間数不定」「活動の種類/高齢者居場所系、広域系、まちづくり系」「手伝い人数/6-10人、1人」、「活動開始年齢/50-59、65-69歳」「現在年齢/70-74歳」で他地域での活動が2件以上との関係が大きいこと、他地域1件目で「福祉系」「学習系」の女性は活動が1件に留まることが多いことを明らかにした。

9. 4件以上の活動を並行させる高齢者の属性、活動の特徴

本章では調査時点現在で地元学区内外を問わず並行して4つ以上の活動を継続中の13人を抽出し活動の特徴をまとめる(Table28,29)。

9-1. 高齢者の属性

「年齢」は「65-69歳」4人、「70-74歳」3人と続き、「80-84歳」も2人

Table28 Attributes of the elderly who do more than 4 activities now and kinds of activities

ID	Basic attribute		role in activity (nums)			district (nums)		type of activity (nums)															total (%)	Activity outside district				total (%)	
	age	gender	officer experience	representative	helper	participant	within district	outside district	Elderly salon	Child care support	Nature	Welfare	School	Residents' association	Wide area	Event	Hobbies	Community development	Multi-generation support	Group management	Foreigners support	Guide		Learning	Table21 Goup				
																									1	2	3		4
1	70	Male	yes	4			4				3	1												4	4			4	
2	68	Female	none	1	4	1	1	5	3	1		1												6	2	1	2	5	
3	60	Female	yes	1	4			5	3			2								1				5	2		3	5	
4	68	Male	none	4	1			5		2							1						1	5	1		4	5	
5	60	Male	yes	3	2		1	4					1			1		2		1				5	2	1		4	
6	69	Male	yes	1	3			4					1			1		1						4		4		4	
7	70	Female	yes		4	1	3	2	1		2		2											5	1	1		2	
8	77	Male	none	2	3			5	1	2	2													5	3		2	5	
9	77	Male	yes		3	1	2	2	1				1								1		1	4	1		1	2	
10	81	Female	yes	1	4		1	4	1	2		1	1	1										5	4			4	
11	66	Male	none		2	4	1	5	1		1	1				1		2						6	5			5	
12	73	Female	none		2	2		4					3					1						4			2	1	3
13	80	Female	none	2	1	1		4	1	1		2												4	2	1	1	4	
total				19(31)	33(53)	10(16)	9(15)	53(85)	13(21)	8(13)	8(13)	11(18)	6(10)		2(3)	2(3)	3(5)	5(8)	1(2)		1(2)	1(2)	1(2)	62(100)	27(52)	6(13)	3(6)	52(100)	

Table29 Temporal aspects of activities of the elderly who do more than 4 activities now

ID	Travel time to activity place (nums)							Age when elderly start the activity (nums)							Participation frequency in 1 month (nums)							Day of participation(nums)					Participation timezone (nums)					Hours of participation/ 1 time (nums)							total (%)
	90 minutes es- indef-nite							-49 y/o 50-59 60-64 65-69 70-74 75-79 80-84							<1 1≤<2 2≤<3 3≤<4 5≤<9 9≤ indef-nite							total week -day week -end both indef-nite					a.m. p.m. a.m. +p.m. indef-nite					<1 1≤<2 2≤<3 3≤<4 5≤<9 indef-nite							
	0-9	10-19	20-29	30-59	60-89	90 minutes es-	indef-nite	-49 y/o	50-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	<1	1≤<2	2≤<3	3≤<4	5≤<9	9≤ indef-nite	total	week -day	week -end	both	indef-nite	a.m.	p.m.	a.m. +p.m.	indef-nite	<1	1≤<2	2≤<3	3≤<4	5≤<9	indef-nite				
1		3	1						1	3					1		2	1			17	4				2			2		2	1	1		4				
2	1	3		2					2	2	2				2	3					3.5+		3	3		2	2	2		1	1		2	2	6				
3			2	2			1		5							4					17.5	1	1	3		2		3	2		2			1	5				
4							5			2	3				4	1					2.5			1	4			1	4		1	3	1		5				
5	1	2			1		1	1	4						1	1	2				5.2+	2		3		1		1	3		1		1	2	1	5			
6						no answer			2	1	1										4				4									4	4				
7		4	1						1	3	1				4						4+	3	1	1		1	3	1		1	3			1	5				
8			4	1					1		2		2		2			2	1		15.5	3		2			1	2	2				4	1		5			
9	1				1		2			1	1	1	1	1			1	2		1	31.5	1		3		1	1	2		1		1	1	1	4				
10				1	3	1		1						4	2	1	2				3.4	3	2			1	2	1	1		1		4		5				
11	2			1	3					5	1					6					6	5	1			1	5				5	1		6					
12		1			3					1	3						2	2			10.5	1			3	1	1	1	1		2		1	1	4				
13			3	1						2	2				1	1	1				6.5+	1	1	1	2			1	1	2		2		1	1	4			
total	9(16)	14(24)	4(7)	17(29)	5(9)		9(16)	2(3)	16(26)	20(32)	16(26)	1(2)	3(5)	4(6)	9(15)	24(39)	8(13)	9(15)	2(3)	2(3)	8(13)		24(39)	10(16)		28(45)	9(15)	19(31)	7(11)	27(44)	3(5)	8(13)	15(24)	16(26)	9(15)	11(18)	62(100)		

いる。「性別」は「男性」(男:女=7:6)、経年での地元学区内自治会 PTA「役員歴有」(有:無=7:6)が多い。母数(母数での対照表 Table 5。以下同)では「女性」58%、「役員歴有」44%なので、「男性」「役員歴有」が相対的に多い。「活動での役割」は、「手伝い」は33件53%と、母数(「全体」^注)。以下同)の49%とほぼ同じであるが、「代表」は19件31%と母数の19%を大きく上回る。活動の件数が多い人は、「代表」である割合も高く、複数の活動で代表をする人もいる(注10。Table 30)。(以上 Table28)。

9-2. 活動の種類

当該活動の大半85%が他地域で行われている。他地域の活動が多い人は11人、他地域だけの活動の人が7人であった。「活動の種類」は、母数では「福祉系」1件だけの高齢者が合計45人と多い(5-1本文)が、現在4以上の活動をする高齢者では「高齢者居場所系」13件21%が最多である。「福祉系」も11件18%と続くが、「福祉系」の活動だけの人はいない。6章の他地域での活動4群のうち、第2群が母数(このみ「他地域」)の6%の倍以上あった(Table 21, 22)。(以上 Table28)。

9-3. 活動の時間的側面

「活動場所までの移動時間」(以下9-3.Table29)は「30-59分」が17件29%と多いが母数に比べその割合は小さい(Table 10)。「10-19分」14件24%、「0-9分」9件16%と続くが、母数の5%前後多い(Table 10)。

「活動の開始年齢」は、「60-64歳」で当該活動を始めた活動が32%と3割を超え、「65-69歳」「50-59歳」が26%と同数で続く。

「1か月の参加頻度」は、「1回以上2回未満」が24件39%と最も多く、母数での33%より若干多い(Table 14)。次に「3回以上5回未満」「1回未満」「2回以上3回未満」「月の開催が不定」が8-9件、13-15%で続く。母数では「2回以上3回未満」「3回以上5回未満」が2割強で続いていたのと比べると活動の参加頻度は全般的に若干少ない。

「1か月の参加頻度」の合計回数(参加頻度不定を除く)では、30回を超える人が1名(登下校の見守りにほぼ毎日参加)、10回以上20回

未満が4名おり、5名で合計回数が多い。これに対し、合計で10回未満が7名おり、活動の数に対して、1か月の参加頻度は少ない人が半数程度いる。

「参加曜日」は「不定」が28件45%と母数での31%を大きく上回る(Table 15。個別にはID=6は「不定」のみ、他7人で「不定」が多い)。回答者の予定等に合わせて参加を決められる活動と相手先の予定から決まる活動とがあるが、これを含めることで定期的ではない活動が増え、活動の種類や回数を増やしていると考えられる。また「参加曜日」が「平日」が24件39%と続くが、母数の48%に比べ少ない。

「参加時間帯」は「不定」が27件44%と母数での24%を大きく上回る。「午後」は19件31%と母数とほぼ同じだが、「午前+午後」が7件11%と母数の30%を大きく下回る(Table 16)。

「1回当たり参加時間数」は「3時間以上5時間未満」が16件26%、「2時間以上3時間未満」が15件24%とほぼ同数で続く。これは母数よりやや少ない(Table 17)。これに対し「参加時間数が不定」が11件18%と、母数の7%を1割強上回って多い。

9-4.活動への参加のきっかけ

各活動を始めた「きっかけ」についての自由記入を抽出して以下に特徴をまとめる。①その活動等のイベント、講習会、勉強会等への参加そのものを理由とする回答がある。「イベントに参画して(ID=1、社会福祉ボランティア)」「傾聴ボランティアの研修受講後、ケアハウスにて傾聴活動(ID=3)」「サークル養成講座を受けたから(ID=12、老人ホーム傾聴訪問)」「ゴミ分別が始まったので勉強会が行われる(ID=7)」等。また、この中には②当該課題に関心があって活動先を探していたことに触れる回答もある。「ボランティアに参加してみたかった(ID=1、屋上緑化活動)」③講習会等の後、行政関係者からの誘導が効いてか、団体を自ら立ち上げて活動を始めるものもある「脳活性化ゲームを習った後、仲間とグループを立ち上げて活動している(ID=3、認知症予防ゲーム・居場所づくり)」④講習会や活動への参加募集に触れたものには「市広報誌でメンバー募集があった(ID=8、小学生・大学生に夕食を作って提供)」「市が募集した。ごみ問題に関心あり(ID=8)」「応募(ID=13、子供への読み聞かせ)」「アート塾の計画より(ID=10、シニア大学のコースアート塾派遣活動)」「家の近くの40年以上前からある林が伐採されたことがあったときに市が立ち上げを募集した(ID=8、環境を守り育て未来に継ぐ活動)」等がある。2件目以降の活動には⑤すでに活動を始めている団体への活動オファーも有効に働いているようであり、「市文化市民局の働きかけにより出発(ID=4、地域組織とNPO協働まちづくり)」「市緑化協会より依頼(ID=1、大通沿い花壇の維持管理)」「区・大学からの依頼(ID=1、ミツバチ養蜂)」があった。また、1カ所での活動から同種の施設からの依頼が続いて活動が広がることもある。「1児童館から市内児童館に」「1小学校から市内12小学校へ」「介護施設から他介護施設へ」(以上3活動ID=4、西陣友禅体験)等があった。⑥学区内の地域団体役員である立場からそれより広い範囲での公的な活動へ立場上義務的に参加を要請される活動もある。「立場上」との理由(ID=6、中学校区コミュニティプラザ連絡会主催行事、NTまちづくり会議、区保護司会)、「小学校PTA会長は顧問会に残る規則なので(ID=5、府PTA連絡協議会)」もあった。また、⑦知り合い等からの勧誘や依頼もある。「知り合いに誘われて(ID=11、多世代交流まちづくり、安心安全マップづくり、イベント広報、高齢者外出支援、コミュニティ

ガーデンでの農作業等5活動)」「代表に頼まれて(ID=11、PC講習会講師)」「依頼を受けて(ID=13、視覚障害者協会女性会へ料理・体操の指導)」「知人の手引きで(ID=13、視覚障害者支援朗読CD作成)」「友人からの誘い(ID=6、西山文化を語る会)」「要望に応じて(ID=9、シニア大学のコース運営)」等多くがこれにあたる。また⑧恩返しから始まる活動もある。「特養でお世話になった母が亡くなったので恩返しにと思って(ID=2、在宅介護者を近づける活動)」「活動の代表が認知症の母が世話になった人だから(ID=2、認知症予防ゲームの会)」「在職中お世話になった地域の恩返しの意味で(ID=3、脳活性化ゲームを中心とした居場所づくり)」等があった。活動を進めていく中で⑨自ら活動を始める人も見られるようになる。「認知症にはうたうのがよい対策なので(ID=2、ギターに併せて大声で歌う会)」「1人になったとき終のすみかとして色々考えていた(ID=2、自立と共生で集まって生活を楽しむ活動)」等があった。以上のように様々な要因が複合的に働き活動のきっかけとなっていることがわかる。

9-5.小結

4件以上の活動を現在並行させている高齢者は、母数での割合と比べ「男性」「経年での役員歴有」が相対的に多く、活動の「代表」であることも多い(9-1)。その活動は85%で他地域で行われ、「高齢者居場所系」が最多で「福祉系」が続く(9-2)。「活動場所までの移動時間/0-9分、10-19分」で、また、「1か月の参加頻度/1回以上2回未満」、「参加曜日/不定」、「参加時間帯/不定」が母数に比べて多い。「参加時間数/3時間以上5時間未満、2時間以上3時間未満」の割合が母数に比べてややその割合は小さいがほぼ同数で多く、「不定」は母数より大幅に高い割合であった(9-3)。以上のように活動場所までの移動時間が短い所へ、少ない参加頻度と、参加曜日・時間帯・時間数で不定などで他地域での活動の数が増えていると考えられる。

10. まとめ

本論では、自身が居住する地元小学校区の回り持ちではない任意のまちづくり活動や、学区を越えて他地域でのまちづくり活動に参加する高齢者に、参加開始時の年齢や退職年との関係、活動の種類や参加の頻度、時間数等について自記式のアンケートを行って得たデータを分析し、各章小結に挙げる事項を明らかにした。これらから他地域に出かけて複数のまちづくり活動をする高齢者に以下の特徴を抽出することができる。

つまり、「50-59歳/65-69歳」等で、また「参加時間数/2時間以上3時間未満/不定」で活動を開始し(8章より。以下同)、「月1回以上2回未満」等で「参加頻度」が少ない、もしくは「参加曜日や時間帯に不定」を含める等して2件以上の他地域のまちづくり活動を掛け持ちする(9章)、「現在年齢70-74歳」(8、9章)の高齢者像が浮かび上がってくる。その中には「男性」で、「経年で自治会等地元学区内の役員をする人」の割合が全体と比べ相対的に高い(6、9章)。このように自身の予定に合わせて参加を決められる活動で、「0-9分、10-19分」等の短い移動時間の活動を含める(9章)等、自身の参加しやすい要件で複数の活動を掛け持ちすることで他地域での活動の数の多い高齢者がいることを明らかにした。また、活動が1つにとどまる高齢者は女性で「活動の種類」が「福祉系」である人が地元学区内外ともに相対的に多い(5、8章)。他地域に出かけてまちづくり活動に参加する高齢者のこうした特徴を鑑み、高齢者自身が楽しみながら、1つと限らず複数

の活動への参加の機会を新たに生むことができれば、高齢化が進み諸処の支援を必要とする地域社会にとって頼もしいことと考える。

この論文は、2018 年度、19 度日本建築学会大会学術講演梗概集で発表した各々文献 26)、27) を基に再分析、修正を加えた。

謝辞

調査にご協力下さった高齢者各位に感謝の意を表します。すべての方のお名前を挙げることは紙幅の関係上適いませんが、各 NP0 団体・府シニア大学 SKY 講座の代表・運営の皆様、京都市各区職員・まちづくりアドバイザー・まちづくり会議運営の皆様、京都 SKY センター、市福祉ボランティアセンター、市・市民活動総合センター職員の皆様に調査票配布にあたりご助力を頂きました。謝意を表します。本研究は平成 29 年度日本学術振興会科学研究費基盤研究 C によった。

注

注 1) 以下では、京都市での例を示す。例えば文献 8) には京都市各区で開催の区民まちづくり会議のうち、伏見区主催(区役所開催)のフューチャーセンター方式で 2011 年から実施されるまちづくり会議(略称"ふしざく"以下同)の参加者に 60-70 代高齢者の参加が全体の(以下同)49%と多く、他区・市からの参加が 13%、逆に同区内でも区役所の位置する小学校区からの参加者は 7%と少ないことが報告されている。市福祉ボランティアセンターは重点課題で、元気な高齢者のボランティア活動の促進に向けた生活支援コーディネータとの連携を謳い(文献 9)、センター主催でボランティア講座や見学会を開いてボランティア団体への受入の仲介を果たし、この講座に高齢者が集まる。同センターのボランティア紹介の広報紙(文献 10)には高齢者が活動する団体が度々紹介されているが、これらの団体は市・市民活動総合センターに団体登録し、府シニア大学でのボランティア講座でボランティア募集も行っている。同大学は高齢者の積極的な社会活動への参加、主体的な地域貢献を促進し、学習成果を地域に活かすよう平成 15 年度にカリキュラムを改め(文献 11)、高齢者の傾聴、居場所づくり、子育て支援等のボランティア活動にも取組んでいる(文献 12)。また、文献 13)には平成 30 年度同大学で実施されたボランティア募集や活動、講座、参加人数等が示されているが、これらは同大学立地の中京区等の各活動場所、つまり、地元学区内ではない場所での活動となることが多い。以上のように、福祉も含めたまちづくり活動への参加で他地域に出かける機会が高齢者には増えている。

注 2) 行政から見た場合、まちづくりの地域側の受皿の単位が、小学校区(以下学区)単位の自治組織である市町村も多い(京都市ではこの単位を自治連合会と呼ぶ(文献 14))。この下部組織である町内や集合住宅の住棟単位の「自治会」「町内会」は、居住者にとっての最小のまちづくり活動の単位ではあるが、行政主管の各種事業(自主防災事業、保健・福祉事業、体育振興事業等)や、運動会、敬老会等が学区単位で開催されることも多く、自治連合会の協力要請で学区内「自治会」が複数共同する諸活動に参加する高齢者は多い。このため学区単位での共同の活動までが居住地の「地元」の活動と居住者に認識されることが多いと考えられる。これに対し、町内や集合住宅の棟単位等の「自治会」ですぐ隣等の単体の自治会へ出向いての活動は、近すぎる場所での活動ともなり、当事者間で違和感や遠慮が働き、そのような機会は学区全体で共同する機会に比べれば少ない。また、地元学区を出ての活動と本論で記す場合も、すぐ隣の学区単位の自治組織の活動に直接出向いての活動を指すものは現時点では少ないと考える。本論で考えるのは、Fig.1 に示すように、第一段階として、地元学区を越えた場所で開催される区や市のまちづくり会議での活動や各種センター開催のボランティア講座等へ出向き、その後、実践活動の具体の場所として地元学区でない場所での諸活動(必ずしも学区単位の活動とは限らない)への参加を想定している。こうした場合、同じ市内や区内であっても地元学区の「外」であることが、「地元外の活動である」と高齢者が感じる最初の単位として妥当であると考えた。

注 3) "ふしざく"への参加者が、同区で個別に始めたまちづくり活動の幾つかに筆者は要請を受けて 2014 年度から参加している。この過程で同会議出席者には高齢男性が多く、活発に活動していること、その理由(居住期間の短い居住者は地縁型組織の中で発言権が小さい、逆に"ふしざく"では前向きな議論や活動ができる等)を直接聞く機会があった。これについて文献 8) で谷は同会議出席者に 60-70 代の高齢男性が多いこと、「地縁型組織ではしばしば他のメンバーに対する不信と恐怖から、協力行動が抑えられてしまう傾向がある」が、同会議では「他の参加者に対し「実際にまちづくりを動かそうと思っている熱い

人、やる気のある人」が集まっていると信じられており、参加者は彼らへの「信頼と好意」から協力行動がしやすくなっていると認識されている。それゆえ、地縁型組織で起こりがちな連帯へ向けたプロセスが停滞しない」と会議の意義を指摘している。以上より、この種の会議での活動をより前向きに楽しむ高齢者が、一定数いると考えた。また同様のことが注 1) の各センターに集まる高齢者にも該当すると考えた。

注 4) 新川は文献 15) で「ボランティア市民」が、形骸化、硬直化した地縁型組織と協働して活性化させる「市民自治」を展望している。本論で筆者は、地元学区を出て他地域でまちづくり活動をする高齢者もこの「ボランティア市民」の一形態であると考えた。これは小田切が文献 16) で指摘する「外部人材」が 1990 年代後半以降の農村集落や産業の再生で果たしたのと似た役割をまちづくりの中で他地域の高齢者が担うのではないかと筆者がなぞらえたものである。

注 5) ハードの整備を伴う狭義のまちづくり以外にも、例えば、高齢者に居場所を提供する居場所づくり活動、傾聴ボランティア活動等、狭義の意味での社会貢献活動(=他者のための活動)や、高齢者対象のウォーキングの会や絵画の会等の他者のために楽しさを提供する(=本人の楽しみだけのためではない)活動等も含め、ソフト面のみの活動もまちをかたちづくる・支えするとの意識から、広義のまちづくり活動として本論では扱う。なお、小学校区内の自治会活動や PTA 活動は、本来、任意参加の活動とされるが、地域居住者の多くが交代で負担する前提での活動であり、関係者の回り持ちで役職等も担当する必要・義務の生じる定常的な活動と考えた。回答者の多くがこの活動は経験しているものとして、分析対象から除き、それ以外の義務的・定常的な活動を越えて、付加的に自ら始めていると考えられる活動を対象とした(自治会系、学校系でもいくつかこれに該当するものがあつた：地域のエコ活動や登下校の見守り活動など)。なお、経年で(=数年続けて)の自治会や PTA の役員は、回り持ちとの意味からは外れると考え、別途の問いで確認した。

注 6) 市まちづくり支援アドバイザーに確め、高齢者の参加の多い会議を調べた。

注 7) 欠損値を表から除いた。以下同。

注 8) 参加曜日で平日とは、曜日がどの曜日まで固定の上でそれが平日の曜日である場合。参加曜日、時間帯の回答に「不定」「いろいろ」等と明記されたものや「不定」と電話で確認のとれたものを「不定」とした。この「不定」には下記のような分類が考えられる。また参加曜日、時間帯の回答に記載のないものは、当初未回答として扱っていたが、活動名や活動内容から個別に精査すると下記の分類に沿った分類が可能となると考え「不定」として加えた。「不定」は平日か休日かが不定を意味しない。

①年に数回の開催など元々曜日で開催を決めていない：府民総体・国体等指導者会議、区保護司会・少年補導の会、ニュータウンまちづくり会議、府 PTA 連絡協議会(PTA 会長 OB 会)等

②イベント日程に合わせた開催のため：チャリティバザー、バルーンアート発表、義護施設・社協催し支援、在宅介護者親睦会等

③相手の予定・要請に合わせ日程が決まる出張・出前等の活動のため：車椅子の修理、障害者の外出支援(運転ボランティア)、日本への帰国者支援、小学校総合学習や児童館での伝統工芸の体験教室、主宰団体の要請に応じた脳トレ・認知症予防体操、お絵描指導出張講義、音楽劇・コーラス、募金集め等

④派遣先団体や施設の提示・要請する日程からその時々で自分の予定に合う日程を選ぶため：博物館ガイド、イベント時の子供の遊び見守り、地域配食ボランティア、高齢者入浴支援、老人会の外出同行、傾聴ボランティア

注 9) 母数の全体=母数での地元学区+他地域

注 10) 回答者母数での活動の役割を Table30 に示す。

Table30 Role in activity			
role in activity	within district*		total
	district*	outside district*	
representative	8(23)	42(19)	50(19)
helper	21(60)	108(48)	129(49)
participant	6(17)	77(34)	83(32)
total(%)	35(100)	227(100)	262(100)

*:elementary school district p=0.139

参考文献

- 1) Cabinet Office: Declaration of "New Public Commons", p.4, 2010.6.4, Documents of 8th Round table of "New Public Commons", 2010.6.4, (in Japanese)
<https://www5.cao.go.jp/npc/pdf/declaration-nihongo.pdf>, (accessed 2019-10-13)
内閣府「新しい公共」宣言, p.4, 第 8 回「新しい公共」円卓会議資料, 2010.6.4
- 2) Cabinet Office: Guidelines for implementing new public support projects, (in Japanese)
<https://www5.cao.go.jp/npc/shienjigyoku-kajijigaidorain.pdf>, 2011.2 (accessed 2019-10-13)
内閣府「新しい公共支援事業の実施に関するガイドライン」, p.1, 2011.2
- 3) Tanaka Yoko: From Old Public to New Public: Regional Organizations from a Historical Perspective, Journal of Japan Association for Social Policy Studies, Social Policy and Labor

- Studies, 2013, OCTOBER, vol.5, no.1, 14th in total, ISSN1883-1850, Small feature 1, Actors of “New Public” in Region, -Report from Nagano Pref., pp.73-82, 2013.10.30, (in Japanese)
- 田中洋子: 「古い公共」から「新しい公共」へー歴史的視点から見る地域団体ー, 社会政策学会誌, 社会政策, 2013, OCTOBER, 第5巻, 第1号, 通算第14号, ISSN1883-1850, 小特集1, 地域における「新しい公共」の担い手ー長野県からの報告, pp.73-82, 2013.10.30
- 4) Ministry of Health, Labor and Welfare: the Community-based Integrated Care System, 5.Improvement of life support services and social participation of the elderly p.1, (in Japanese) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiki-houkatsu/index.html, (accessed 2019-10-13)
- https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiki-houkatsu/dl/link5.pdf, (accessed 2019-10-13)
- 厚生労働省: 地域包括ケアシステム, 5.生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加, p.1
- 5) Ministry of Health, Labor and Welfare, Local Health and Welfare Bureau: Do you know the Community-based Integrated Care System?, p.2, (in Japanese) <https://kousei-yoku.mhlw.go.jp/kyushu/faq/documents/minipamph.pdf>, (accessed 2019-10-13)
- 厚生労働省地方厚生局: 地域包括ケアをご存知ですか?, p.2
- 6) Cabinet Office: Report of Investigative commission on basic ways for measures against aging society- Aiming for dignity and independence-(3/4, especially p.14), Investigative commission on basic ways of measures against aging society, 2012.3, (in Japanese) <https://www8.cao.go.jp/kourei/kihon-kentoukai/index.html>, (accessed 2019-10-13)
- <https://www8.cao.go.jp/kourei/kihon-kentoukai/pdf/report1-3.pdf>, (accessed 2019-10-13)
- 内閣府: 高齢社会対策の基本的な在り方等に関する検討会報告書〜尊敬ある自立と支え合いを目指して〜(3/4, 特にp.14), 高齢社会対策の基本的な在り方等に関する検討会, 2012.3
- 7) Higuchi Keiko: Social Involvement and Contributions by the Elderly changes the world, Aging Society Forum in Tokyo, Keynote speech, Cabinet Office, especially p.7, “From supported elderly to supporting elderly”, 2012.12, (in Japanese) <https://www8.cao.go.jp/kourei/kou-kei/24forum/pdf/tokyos2.pdf>, (accessed 2019-10-13)
- 樋口恵子: 高齢者(シニア)の社会参加が世の中を変える, 高齢社会フォーラム・イン東京, 基調講演, 内閣府, 特にp.7, “支えられる高齢者から支える高齢者へ”, 2012.12
- 8) Tani Ryoji: A consideration on various venues: Practical case report of Fushimi-ku Kyotoshi “Fushimi Wo Sakana Ni Zakkubarab”, Community Policy 16, Editorial board of Japan Association for Community Policy, Toshindo, pp.65-89, 2018.7.7, (in Japanese)
- 谷亮亮: 多様な寄り合いの場からコミュニティを考えるー京都市伏見区「伏見をさかんにぎっくばらん」の実践報告から, コミュニティ政策 16, コミュニティ政策学会編集委員会, 東京堂, pp.65-89, 2018.7.7
- 9) Social welfare corporation, Kyoto City Social Welfare Council: Business plan 2018, (in Japanese) <https://www.syakyokkyoto.net/shisyakyo/wpcontent/uploads/sites/14/H30jigyokeikaku.pdf>, (accessed 2019-10-13)
- 社会福祉法人, 京都市社会福祉協議会: 平成30年度事業計画
- 10) Kyoto City Welfare Volunteer Center: Monthly journal “Volunteers”, (in Japanese) http://whitomachi-kyoto.genki365.net/gnkk15/pub/content_search.php?type=81&sort=5&select_class=1&sn=1&n=20, (accessed 2019-10-13),
- 京都市福祉ボランティアセンター: ボランティアーズ
- 11) Foundation (2009, now Public interest incorporated foundation), Kyoto SKY Center: Report on the research project for the promotion of local activities by graduates of senior citizen universities, (in Japanese), <https://www.kyoto-sky.net/jigyoleader/index.html>, (accessed 2019-10-13)
- https://www.kyoto-sky.net/jigyoleader/pdf/200903_chousa/p2.pdf, (accessed 2019-10-13)
- 財団法人(2009年当時, 現公益財団法人)京都 SKY センター: 高齢者大学修了生の地域活動推進調査研究事業報告書, 2009.3
- 12) Public interest incorporated foundation, Kyoto SKY Center: Senior power to support Kyoto・Promotion project of Lifelong active society, (in Japanese) <https://www.kyoto-sky.net/shogaigeneki/#3>, (accessed 2019-10-13)
- 公益財団法人京都 SKY センター: 京都を支えるシブ力〜生涯現役社会推進プロジェクト〜
- 13) Public interest incorporated foundation, Kyoto SKY Center: Business report 2018, especially pp.9-14, (in Japanese) <https://www.kyoto-sky.net/zaidan/pdf/30houkoku.pdf>, (accessed 2019-10-13)
- 公益財団法人, 京都 SKY センター: 平成30年度事業報告, 特にpp.9-14
- 14) Kyoto City: Regional Community Activation Promotion Ordinance, 2018.11, p.2, (in Japanese) https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/cmsfiles/contents/0000250/250941/310401kai_seijourei.pdf, 2018.11, (accessed 2019-10-13)
- 京都市: 地域コミュニティ活性化推進条例(第2条(3)ウ), 2018.11
- 15) Niikawa Tatsuro: Citizen self-government-type local governments in the decentralized era, Community policy, 2007, vol.5, Japan Association for Community Policy, 5th conference, Asking about community policy and residents' autonomy policy in the decentralized era: Looking back on 6 years from the Decentralization Act, Keynote speech, pp.7-25, (in Japanese), <https://doi.org/10.11192/jacp.5.7>, 2013.3.28 (accessed 2019-10-13)
- 新川達郎: 分権時代における市民自治型自治体, コミュニティ政策, 2007, 5巻, コミュニティ政策学会, 第5回大会, 分権時代のコミュニティ政策・住民自治政策を問うー地方分権一括法から6年を振り返るー, 基調講演, pp.7-25, 2013.3.28
- 16) Odagiri Tokumi: Vision of development of rural community(Chapter1), Odagiri Tokumi and Hashiguchi Takuya editing, Endogenous development of rural community, theory and practice Agriculture and Forestry Statistics Publishing, 2018.3, (in Japanese)
- 小田切徳美: 農村発展のビジョン(第1章), 小田切徳美, 橋口卓也編著, 内発的農村発展論理論と実践ー農村統計出版, 2018.3
- 17) Cabinet Office: 2012 edition, Annual Report on the Aging Society, Chapter 1 Situation on Aging, Section 4 Creating an environment in which elderly persons can thrive, (in Japanese) https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/24pdf_index.html, (accessed 2019-10-13)
- 内閣府: 平成24年版高齢白書, 第1章高齢化の状況, 第4節高齢者が活躍できる環境づくり
- 18) Cabinet Office: Attitude survey on participation of elderly people in community, 2013, (in Japanese), <https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/zenai/index.html>, (accessed 2019-10-13),
- 内閣府: 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査, 2013
- 19) Tokyo Metropolitan Government: Healthy elderly people who support area, Internet survey by Welfare health monitors, Questionnaire results, (in Japanese) <http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2015/03/60p34200.htm>, (accessed 2019-10-13)
- 東京都: 地域を支える元気な高齢者, インターネット福祉保健モニター, アンケート結果
- 20) Yuta SHIRAHATA, Tetsu YOSHIDA, Shinichiro IWATA: The hub for the community support activity by the retired elderly, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, Architectural Planning and Design, pp.263-264, 2016.7, (in Japanese)
- 白旗勇大, 吉田哲, 岩田伸一郎: 退職後高齢者の地域支援活動の拠点, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.263-264, 2016.7
- 21) Tatsushi ITO, Koya UTSUMI, Koichi ISHIZAKA: Estimates for Future Demand and Supply of Nursing Care and Examination of Utilizing Possibility of Area Volunteer Caregivers-A case study in Sendai metropolitan area, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), Vol.80, No.714, pp.1893-1901, 2016.8, (in Japanese)
- 伊藤敦, 内海康也, 石坂公一: 高齢者介護における需給の将来推計および介護支援ボランティアの活用可能性の検討ー仙台都市圏を対象としてー, 日本建築学会計画系論文集, 第80巻, 第714号, pp.1893-1901, 2016.8
- 22) KIM Jung Hwa, PARK Jongrae, HANAZATO Toshihiro: Analysis on Survey of the Attitude Concerning Care Staff and Volunteers' Roles in Senior Citizen Facilities-A Study on Utilization of Mutual Care Volunteers by Elderly People (Part1), Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, E-1, pp.399-400, 2008.7, (in Japanese)
- 金正和, 朴鍾来, 花里俊廣: 高齢者施設における介護スタッフ・ボランティアの役割分担に関する意識調査-高齢者による互助的介護ボランティアの活用に関する研究(その1), 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.399-400, 2008.7
- 23) Sakurai, Ryota et al.: Long-term effects of an intergenerational program on functional capacity in older adults: Results from a seven-year follow-up of the REPRINTS study. Archives of Gerontology and Geriatrics. 2016. 64. 13-20, <https://doi.org/10.1016/j.archger.2015.12.005>, (accessed 2019-10-13)
- 24) Sakurai, Ryota et al.: Preventive effects of an intergenerational program on age-related hippocampal atrophy in older adults: The REPRINTS study, International Journal of Geriatric Psychiatry. 2017. 33(2). e264-e272, <https://doi.org/10.1002/gps.4785>, (accessed 2019-10-13)
- 25) Nonaka, Kumiko et al.: For how many days and what types of group activities should older Japanese adults be involved in to maintain health? A 4-year longitudinal study. PLOS ONE. 2017. 12(9). e0183829, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0183829>, (accessed 2019-10-13)
- 26) Tetsu YOSHIDA, Shinichiro IWATA: Characteristics of subject and first activities -Part 1 Cross-border Machidukuri done by elderly, out of elementary school districts where they live, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, Urban Planning, pp.1059-1060, 2018.7, (in Japanese)
- 吉田哲, 岩田伸一郎: 活動主体, 1つ目の学区外活動の特性-高齢者による越境まちづくりの研究-その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 都市計画, pp.1059-1060, 2018.7
- 27) LIU Lin, YOSHIDA Tetsu, SUGIMOTO Masahiro, IWATA Shinichiro: Classification of Cross-border activities and Characteristics of subjects and the elderly with multiple activities-Cross-border Machidukuri done by the elderly, out of elementary school districts where they live, Part 2, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, Urban Planning, pp.595-596, 2019.7, (in Japanese)
- 劉琳, 吉田哲, 杉本将大, 岩田伸一郎: 学区外活動の分類と複数の活動をする高齢者の属性, 活動の特徴-高齢者による越境まちづくりの研究-その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 都市計画, pp.595-596, 2019.7

VOLUNTARY COMMUNITY DEVELOPMENT ACTIVITIES DONE BY THE ELDERLY TRANSCEND THE ELEMENTARY SCHOOL DISTRICT WHERE THEY LIVE

Tetsu YOSHIDA^{*1} and *Shinichiro IWATA*^{*2}

^{*1} Assoc. Prof., Graduate School of Engineering, Kyoto University, Dr.Eng.

^{*2} Prof., College of Industrial Technology, Nihon University, Dr.Eng.

This paper has clarified the following based on the questionnaire analysis from the specifications of voluntary community development activities that elderly people do not perform in turns in the primary school district where they live and those activities they participate in beyond that district boundaries.

1) 39% activities started before age 59, 67% before age 64, and 15% after age 70. According to time of retirement, shows that nearly half, started activities after retirement. By type of activity, about 40% are welfare-related activities, 10%, are related to making places for the elderly. The average number of activities in school districts is 0.3, while the average number outside districts is 1.8, and overall average is 2.1.

2) Considering only activities outside the school district, based on cluster analysis, valid 220 activities are divided into four groups based on specifications of them. In every group, welfare-related activities are numerous, and are divided into groups with combining other specifications. In Group 1, activities done about once a month, in the afternoon or in the morning + afternoon, for “ $3 \leq < 5$ hours”, are included in a total 68%, such that most are “ $11 \leq \leq 20$ people” with participants only in their 70s and 80s. In contrast, group 2 are wide-area activities held about several times a year. In Group 3, the days of the week of participation are indefinite, regarding the participation time-zone in day, in many cases it is morning + afternoon, and more than 5 hours or “ $2 \leq < 3$ hours”. Regarding participation frequency, it is often “ $2 \leq < 3$ times”, or “ $3 \leq < 5$ times per month”. Regarding number of helpers, it is “ $3 \leq \leq 5$ ”, no central age, or only 50s and 60s. In Group 4, the days of the week of participation and time-zone are both indefinite, but regarding activity hours, the time is “ $3 \leq < 5$ hours”. Regarding participation frequency, many are “ $1 \leq < 2$ times per month”. Regarding number of helpers, it is often six to ten, and the average age of the helpers is often only 70s to 80s, or no central age.

3) According to discriminant analysis, from items of the first activity outside school districts, the specification of activity and attributes of the elderly closely related to two or more activities outside the school district is clarified. That closely related to two or more activities outside district is activity hours per 1 participation. Many people reported two or more activities are taking “ $2 \leq < 3$ hours”, or indefinite hours. Next, regarding the types of activities, such as those related to making places for elderly people or wide-area activity, community-development activity (narrowly defined), there is a marked trend toward two or more activities.

4) As characteristics of the 13 elderly people who perform four or more activities in parallel now, males and officers in neighborhood association are more numerous than in the values under the averages number of overall survey respondents. 85% of their all activities are involved outside the school district. Regarding types of activities, the most numerous are making places for elderly people at 21%, followed by welfare-related activities at 18%.

As above, the results have clearly shown that activities that transcend the school district where the elderly live, include activities in which condition of participation is decided according to the schedule of themselves, by, for example, including those with low monthly participation frequency or those with indefinite day of the week of participation, and that the travel time is often short; in other words, the number of activities is increased by such convenient conditions for their own participation.

(2019年6月10日原稿受理, 2019年12月18日採用決定)